ＥＳＤＧｓ通信　**中学校全校生徒に向けた講演会の準備と、前川喜平さんと鈴木敏恵**

**さんの対談（国語の話）のご紹介 20210519　手島利夫です**

　皆様、こんにちは。お世話になっております。

変異ウィルスの爆発的な感染拡大にワクチン接種が間に合うのか、厳しい戦いの

日々が続いていますね。異常事態の日常化が進み「異常事態宣言」の効力も薄れてき

ています。そのような厳しい状況ではありますが…、ＳＤＧｓの授業は進めます。

**（１）　中学校全校生徒に向けた講演会「コロナ時代を生きる」の準備**

関東地方のある中学校から、全校生徒４５０名に向けて２時間でＳＤＧｓの講演

（授業）をしてほしいというご依頼をいただき、その準備を進めておりました。関西

の高等学校からも似たようなご依頼が届いております。会場等の都合上、対面とオン

ラインとのハイブリッドでの実施になりそうです。

新型コロナの蔓延で世界や我が国の持続可能性が脅かされていますが、中学生たち

も高校生たちもその当事者なのですから、これを事例に学びます。

**ＳＤＧｓの本質に迫る授業（１）は「コロナ時代を生きる」です。**

①　「人々の健康や福祉」の課題（ＳＤＧｓの３番）だったはずのコロナ問題も、「医

療・福祉」の問題だけでなく、各産業や雇用等への深刻な打撃や、休業補償、いじめ

など人権上の問題や教育への影響、国際的な連携の必要性など複雑に絡み合って、問

題を次々と深刻化させていることから世界の課題における関連の広がりに気づかせ

たいものです。

②　そして、これらの事実を踏まえ、これからの時代を生きていくには「物事を広い

視野から多面的に関連付けて捉える総合的なものの見方や考え方」を身に付けること

が欠かせないことにも気づかせたいと思います。

ＥＳＤカレンダーを意識して教師が指導することも重要ですが、生徒たち自身が学

びの関係性・つながりを意識して、教科等の枠を超えた横断的な学びや構造的な理解

を意識して学びを進めるようになることこそが、生徒さん方には、よほど手っ取り早

いと思ってしまいます。先生方も、この授業はご覧になっているはずですから、相乗

効果にも期待しています。

③　また、持続可能な社会の創り手としては、問題に気づき、学び、整理し、判断し、

表現するだけでなく、協働や行動変容までが求められています。その具体例も私たち

の生活の中にあります。

私たちは、コロナ禍の世界を生き延びるために、一年前には考えもしなかった、様々

な行動変容を成し遂げています。例えば

・東京では、町の中を歩く人は、ほぼ１００％・・・マスクをつけています。

・電車の中ではほとんど・・・会話は、なくなりました。

・学校やお店等に入る際には・・・検温や、アルコール等での消毒をよくします。

・レジの前では・・・前の人との間を広めに開けて待ちます。

・仕事でも、大学等での授業でも・・・リモートワークが急拡大しました。

④　このようにして、自分たち自身がＳＤＧｓの当事者として生きていることの自覚

を深め、学びのあり方や、学びに向かう（生きる）姿勢をどのように変えていけばい

いのか、具体的な理解を深めておきたいのです。

「ＳＤＧｓとは・・・」といった知識・理解の伝達から話を始めるようなやり方は、

新たな時代における学びのあり方を、古い時代の教育方法で伝授しようとするような

ものです。教育のプロのなすべきことではありません。資料を配れば済むことです。

**ＳＤＧｓの本質に迫る授業（２）は「ＳＤＧｓって何だろう」です。**

授業（２）は、人類が課題を「克服」し続けてきた歴史にふれるところから始まり

ます。そもそも、ＳＤＧｓって、未来を閉ざしかねない様々な課題克服への壮大なチ

ャレンジですものね。だから知識や理解よりも課題克服へのチャレンジシップを楽し

く掻き立てることこそ大事なのだと思うのです。

　そういえば、先日、ある学校でお目にかかったメディアプロデューサーの大先生も、

「人間の判断の９割以上は感性によるものです。知識や理論は直感の後付けにあるよ

うなものです。」と子どもたちに向かって、直観力（感性）の大切さを体験的に伝えて

いらっしゃいました。

　そんなこともあったりなかったりする中で授業を構想しています。

①　「縄文土器の発明が、食糧危機の克服につながったようだけれど、どのようにし

て危機が克服できたのだろう」という意味の問いかけから、人類による危機克服の一

つの事例を示します。でも、縄文土器が食生活の安定と改善に果たした重要な役割っ

て、案外、小学校の授業で教えられていないようですね。大人の方も驚きをもって受

け止めてくださいます。

身近な地域の遺跡とも関連づけながら話題を提供したいと思います。（地域に根差

した学びにしたいものです。貝塚なんて全国各地の海岸近くにありますからね。）

②　「私たちは２４０万年もの歴史の中で、食糧危機以外にも様々な問題を乗り越え

てきていることと思います。一体どのような問題があったと思いますか。一人３つ以

上書き出してみましょう。」次に仲間と協働して１０以上に増やします。（発想の連鎖

など、協働する楽しさを感じながら学んでほしいものです）

③　「○×中学校、きっとこうだったんじゃないか劇場・○○克服物語り」を書いて

みよう。次にそれをいろいろな人と読んでもらい合おう。（ＳＤＧｓなのに物語なん

か作っちゃっていいの？という気持ちで、楽しんでもらいます。毎回ここが子どもた

ちにとって一番楽しかった時間になるようです。）

④　様々な問題の克服は、たとえ個人の幸せのために取り組んだとしても、結果とし

ては多くの人の幸せにつながっていることを確かめる。（みんなの幸せも個人の幸せ

もつながっているんだね）

⑤　現在の社会でも克服しなくてはならない問題があるが、どのようの問題があるの

だろう。付箋紙にたくさん書き出そう。（ここでは質よりも量でいいことにしよう）

⑥　そしてその問題はＳＤＧｓの何番と関係がふかいだろうか、付箋紙に書き足そう。

　（何番か迷うのも学びのうちです）

⑦　ＳＤＧｓのそれぞれのロゴを貼った１７枚のパネルがあるが、付箋紙をそれぞれ

のパネルに貼りに行こう。その際、同じ問題どうし、まとめるように貼るようにしよ

う。（情報の整理をしながら集約するのに慣れるのも大事ですね）

⑧　自分が気になる問題を見つけ、その横にシールを貼りに行こう。（他人の考えよ

りも、自分の気持ちや関心の方向性を重視します）

⑨　ＳＤＧｓの問題について色々と考え、気にしていることはわかるが、『視野が狭

い』ことを、１６９のターゲットを引用しながら指摘するともに、今後の学びに「深

さ」が出るようなコメントをして、授業を終わります。キーワードは「それで本当に

世界は変わるのですか」「ぼーっと生きてるんじゃねえよ！」のようなことです。

⑩　授業が終わって「さあ取り掛かれ」でなく、自分の関心に沿って情報へのアンテ

ナを伸ばす時間（いわば発酵する時間）が必要と思う。（仕事じゃないんだから、そし

て、インスタントラーメンを作っているんじゃないんだから、自分のことと思えるた

めにも余裕をもって学ばせたいものです。人生をかけて取り組み続けるきっかけが生

まれるかもしれませんよ。）

オンラインで授業に参加している生徒さんたちと、対面で参加している生徒さんたち

との温度差が出ないように工夫していく必要がありそうです。

**（２）前川喜平さんと鈴木敏恵さんとの対談（第７回）**

<https://youtu.be/PjRFN0Zqcio>

　今回は「国語は何のため？フィンランドの教科書　近現代文学」といった内容で

した。「読む」は「学ぶ」、 近現代文学の話：夏目漱石　我輩は猫である　それか

ら、…そして読むことからたくさんの「叡智への扉」が開くといったお話でした。

今回は、なんとなくのどかな気分でお話を伺いました。

**「ＥＳＤ・ＳＤＧｓ推進研究室」　手島利夫**

URL=https://www.esd-tejima.com/

　　 　　　　　　　　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

　　　　　　　　　　 ☏＝ 03-3633-1639　 090-9399-0891

　　　 Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com

C:\Users\conta\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\Content.MSO\E74122E4.tmp